

# 風の音・水の音 魂のふるえを奏でる

# おいしい書館

No. 33

## ドリシバウ

## 丸山祐一郎

## 演奏会

六月一日(土)

女性センターホル  
ルの民族楽器・ド  
リンバウのソロ演  
奏者である丸山祐  
一郎さんをお招き  
しました。おーい  
図書館三年目の  
企画ですが、心豊  
かなひとときでした。

### 共鳴の歎び

### ドリシバウ・宇宙への聖ま

—中津川の実家より—

お元気ですか？松戸よりなる  
か遠く、紅葉広がる山々に囲ま  
れたふるさとの朝は、思つたよ  
り冷え込みます。二人だけで住  
ひする年老いた両親は、突然の  
私達姉妹の見舞いに言葉左のみ  
涙で迎えてくれました。母が一  
日も早く回復してくれるよう祈  
りながら、夢中で動き回ってい  
ます。毎朝早く、田んぼの真ん  
中で開かれる「朝市」。地元でさっ  
き収穫されたばかりの水々しい  
野菜・めずらしいきのこ、栗、  
香り高い色とりどりの可愛い  
小菊の花など、思わずどっさり  
買い求め、早速意気込んで、き  
のと御飯や柔らかいかぶの浅漬  
け、みょうがや長ねぎをきかせた

温かい野菜汁、里芋の煮物、  
栗きんとんなど楽しく作りまし  
た。お陰様で、近所の方々のや  
さしいお声かけもあって、母に  
笑顔がもどり、食がすすみ、父  
は看病のぐちや疲れもみせず、  
又、以前のように仲良く前向き  
になろうと思ってくれたようで、  
母は不思議な事に台所へ出てく  
るようになり、人間の生命力の  
尊とさ、自然の恵みに感謝しま  
した。

そういえば、思い出すのは、  
やはり、今年六月一日、夜六時半、  
心若き芸術家丸山祐一郎さんの  
宇宙的な広がりを感じる「ドリシ  
バウの美しい音との出逢い」。乗  
譜のいらぬ本物の生の演奏会。  
魂の震えを奏でる丸山さんは、  
自らの夢を育て、ひたすら祈る  
心で舞台作りをされ、地球や人  
の心を大切にしながら、輝く光

の音を自由に生み出し続ける。  
細やかさに圧倒され、ほめるひ  
まさえありません。

ドリンバウは弓の形をした、た  
た一本、一枚のブラシルの民族楽  
器。弦をバチで叩き、石で押え  
て音程を自由に変え、それを弦  
についでいるひょうたんで共鳴  
させる。神秘的で、会場の人達  
とたくさんの種類の好きな打楽  
器でドリンバウと共鳴出来た瞬間  
は、心踊り幸せでした。共に育  
ち合う喜びです。忘  
れられない感動！

もう一度耳をす  
ませたいです。



稲刈りの終った田んぼの対岸、  
色づいた、あずきを一房くく  
いねいに取りながら、おしるこ  
好きの母が、自分となべいっばい  
あずきを煮て近所に配った後、  
おいしい〜とおわん一杯食

べる時が一日も早くきますよう  
に……とボーと考えていたら、  
赤とんぼが指の先にとまりまし  
た。野に出て働く事は、何より  
気持ちが良いほっとしました。  
こちらへ来て五日目、明日もみ

聞きたくなくても聞かされる  
音や音楽が耳に飛びこんで来  
る私の日常。ところが、ある  
日ある時、私は吸い込まれる  
ように音に聞き入った。こん  
なに真剣にまた楽しく心地良  
い音楽を聞いたのは久しぶり  
だった。ドリンバウという一  
弦楽器の演奏を聞いてみさせ  
んかと誘われて行った会場の  
薄暗い照明の中で、掻き鳴ら  
されるドリンバウの弦の音も  
さることながら楽器と奏者が  
一体となった激しいリズムに  
圧倒されてしまった。

# ドリンバウを聞いて

んなが幸せでありますように…  
(・松原 和子)  
発行 おーい図書館  
連絡先 青木和子  
松戸市総合ハニ。六。0  
0473-67-5384

楽譜は無くすべて即興演奏と  
聞いて驚いたが、ほとんどの楽  
器は、石や竹やサボテン、木  
の実、はてはジュースの空缶ま  
で利用した手作りという。ま  
たまたびっくり、コーヒー豆の  
入っていた空缶を利用した「  
水カンリンバ」は、澄んだ水  
音が響いてすばらしい音色が  
した。音楽はイメージを持つ  
てアプローチすると言われた  
ことが頭に残っている。目を  
すまして聞くことの大切さを  
改めて思いました。  
(毛利 多壽子)